

読書 1~10

● 杉原千畝と命のビザ 自由への道
作 ケン・モチツキ 絵 ドム・リー
訳 中家多恵子 シタ文社

ページを開く、まっすぐこちらを見まくる幼い男の子の表情に思わず息が止まり、体が堅くなる。胸からじめつけられる、「目は心の鏡」ということわざがあります。はじめの一行を読む。

1940年、外交官としてリトアニアに派遣された杉原千畝は、日本政府の許可を得られまいまま、避難してきた多くのユダヤ人にビザを発給して、何千もの人の命を救った。杉原の息子5才のヒロキも家族とともにその場に居合わせた。ヒロキの語りで、父や母の命をかけた決断と行動がありですか伝わる、全ページセピア色の静かなそして人の心の奥までしみていく絵。

下記の2冊とともにぜひ図書館で借りて下さい。

● かいをえたホームラン ケン・モチツキ作 ドム・リー絵 ゆりょう子訳 岩崎書店

第二次大戦中、アメリカが「日本人は、国家にとって危険な存在とみなされ、強制収容所に送られた。砂漠のまん中に作られたキャンプの地。突然日常生活を奪われた。食事を待つ外の長行列。大人や子と老男や女、逆光の中の一人ひとりの心のうちまで感じじとれる。この絵もほんと茶色、真実味が伝わる。奈谷を作った二人の経歴も読んで下さい。

● おもいたしてくたさい あの子どもたちを

構成・文 キヤナ・バイヤース、アベールス
やく あひなたたす ほるふ出版
ドイツで起きたユダヤ人への残虐な迫害による命を失った少年少女たちの記録、このできごとを記録するために有名、無名のカメラマンが命をかけて写真。写真の下の短かい静かなことは、多くを語らず、私たちは訴えよ。二度とあつはならない、こんな残酷なことを人間がやつた――。

今年もコリさんちの高枝に登って
さり枝を切った。

ハシゴに登ってコリコリ、大丈夫?
立ち寄りました。

わかめ・玉ねぎ・さつまいものかき揚(相性抜群!)
おいしくよく作る。婦人と友が支援している三陸十三漁のわかめ、肉厚でおいしい。レシピ本も出ています。

(4人) 塩蔵わかめ 20g — 塩ぬけして水気を切り細かめのサク切り
さつまいも小1本 — 1cmの角切り、水にさらして水気ふく
玉葱 70g — 1cm角にすり合わせて小麦粉を
小麦粉1カップ 軽くふる
卵1個、冷水>あぐりませ、ゆるい衣を作り具を油は
170°C油にスプーンで落して
からりと揚げる。シトウ素揚も
とて。

～尾道は冬日和～ 12/20



急に思つて尾道へ
しまなみ海道の高速で
一時ほどで着く。

川のように流れぬ海、尾道水道、山の上の
美術館は私たち二人だけ、せいたくする。「美術館コレクション展」
で、小林木和之作の作品を沢山、梅原龍三郎、中川一政、そして
レオーの「オアシス」も!

通称
尾道かうでハウス
(旧和泉家別邸) 昭和八年
上に不思議な建物。
サグラダ・フミリアの
ようになり完成するか
わからないう意味
での愛称
わざと1坪の家。
洋風建築もしくつめる。
息切れしそうな斜面を石段
と路地がぐうごう。
中世の開港以来、人とモノと
財が集まり栄えた町。

林実美子記念館 へも

けやき通信 2017.12月
NO.294

—錦織 佳代子—

あ、流れ星!
数分後また、
15日未明の6時すぎ、いつもの祇園神社の境内で体操をしていた。流れ星!! 東の空、三日月の方へ輝く銀の帯がースっと流れていった。ふたご座流星群ね、おめりする間もなかった。毎年14日頃を中心に行なうそうです。

